

包括的連携協定10周年

錦江町×ソラシドエア



2023年10月
グリーンスカイフェスタ



2013年7月 就航イベント



2013年7月 元氣ファクトリー錦江町号 就航

鹿児島ー羽田を結ぶ航空会社、ソラシドエア。東京へ、毎日往復4便運航。東京の他、沖縄、名古屋へ向かう便もあり、県民の足となっています。錦江町はソラシドエアと2014年12月に包括的連携協定を締結。今年は10周年を迎えるメモリアルイヤー。今回は、本町とソラシドエアの10年の歩みを振り返り、10周年記念事業について紹介いたします。

ソラシドエアと本町がつながるきっかけとなったのは、2012年10月。ソラシドエアの機内誌に大隅半島を取り上げる特集が組まれました。その際、本町への取材に同行されていたソラシドエアの担当の方が、「このようにいいところ、みなさん知らないですよ。もっとPRしましょう。うちの飛行機をPR媒体として使ってください。」と。この言葉がきっかけとなり、実現したのが2013年7月の「元氣ファクトリー錦江町号」の就航。ソラシドエアは機体を活用し、地域をPRするプロジェクト(空恋プロジェクト)を行っており、プロジェク(プロジェクト)を行っており、県内では錦江町が第1号となりました。就航イベントは大盛況。「元氣ファクトリー錦江町号」は1年間運航し、機内では本町の特産品や観光をPRする機内誌の配布、大根占ふかみ会のお茶の提供などが行われました。

2014年5月には、錦江町とソラシドエアのコラボ商品「ソラメロパン」を県内約二百店舗のローソンで販売。そして、2014年12月、「元氣ファクトリー錦江町号」が1年間のフライトを終えたことを契機に、包括的連携協定を締結。今後もより一層相互に連携しながら、観光や地域産業、地域文化等に加え、航空文化の振興に努めるべく結ばれた協定です。

包括的連携協定締結後は、ソラシドエアが主催するイベント「グリーンスカイフェスタ」へ参加し、特産品販売や本町のPR活動などを行っています。また、昨年度はソラシドエアの機内誌「ソラタネ」に錦江町の特集が12ページにわたって掲載され、約1万4千部が発行されました。

2024年

包括的連携協定 10周年
5つの記念事業を予定



2023年

九州移住ドラフト会議への参加
ソラチヨク便(空陸一貫小口貨物輸送サービス)を活用した流通
ソラシド機内誌 掲載



2018年～

グリーンスカイフェスタへの参加

2015年～

鹿児島空港内での特産品販売

2014年12月

包括的連携協定 締結



2014年5月

錦江町とソラシドエアのコラボ商品「ソラメロパン」を県内200店舗のローソンで販売



2013年7月

機体活用プロジェクト(空恋プロジェクト)にて、「元氣ファクトリー錦江町号」が就航



包括的連携協定10周年

記念事業 始動!!!



株式会社ソラシドエア
地元価値共創本部 共創推進部長
田尻 香さんにお話をお伺いしました！

株式会社ソラシドエア
地元価値共創本部
田尻 香 共創推進部長

「『九州・沖縄の翼』として、地元の課題を解決していくお手伝いができれば。」
と話されたのは、ソラシドエア地元価値共創本部共創推進部長の田尻さん。現在、ソラシドエアと協定関係を結

んでいる自治体は全国に28。錦江町は鹿児島県内で、最初に協定を結んだ町とのこと。
「地域の課題を、航空会社の看板を使って解決・改善できるような活動をお手伝いしていきたい。その中で、地元の方が地元の良さを再確認したり、地元のいいものに気付いて、それを強みにPRしたりできるようにになれば嬉しい。」

と語る田尻部長。
今回商品化するフレグランスオイルは11月末に東京で行われるグリーンスカイフェスタで販売予定。田尻部長は、「グリーンスカイフェスタは、これまで空恋プロジェクトつながりのある自治体様をメインに、ブースを設けさせていたのですが、各自自治体のブースにソラシドエアの社員もスタッフとして入り、

お手伝いしています。今後は、お手伝いする社員が事前に町を訪れたり、町を知ったりする機会が持てるということだと思います。」
と意気込みを話されました。

・お試しワーケーション制度を利用し、ソラシドエア管理職会議を錦江町で実施
・ソラシドエアへの企業研修として役場職員を派遣
・錦江町でんしろうトレイルへのサポートが予定されています。
ソラシドエアとの包括的連携協定10周年記念事業。続報が入り次第、広報誌でお伝えしていきます。

／香りの調合作業の流れ／

① 約40種類のアロマオイルの香りを嗅ぎ、◎○△に分類。



香りは人によって好みが変わる。分類結果も人それぞれ異なっていて、おもしろい。

② 茶の実オイルとホホバオイルを合わせたものに、アロマオイルを足して、香りをつけていく。自分がイメージした香りに近づけるよう、微調整するのが難しい。



③ 参加者が調合した香りを全て並べて、どの香りを商品化するか投票で決定。

6月29日、南大隅町にあるボタニカルファクトリーに純短大の学生12名、ソラシドエア社員4名、錦江町茶農家2名が集結。今回の目的は、昨年学生たちが収穫した茶の実を搾ってできたオイル（茶の実オイル）と、様々な香りのアロマオイルを調合し、今年商品化する『フレグランスオイル』の香りを決定すること。フレグランスオイルは、手や体に塗り、香水のように香りを楽しむ。

鹿児島純心女子短期大学（本町と包括的連携協定を結んでいる）と錦江町とで、地域再生を目指して取り組んでいる「お茶の実プロジェクト」。少子高齢化や、お茶を飲む文化の低迷等の影響を受け、町内には耕作放棄地の茶畑が増加しています。一昨年から、鹿児島純心女子短期大学（以下、純短大）と共同で、耕作放棄地で収穫したお茶の実からオイルを採り、新たなお茶の活用方法やビジネスとしての可能性を探っています。

第1弾 鹿児島純心女子短期大学×錦江町×ソラシドエア／ お茶の実プロジェクト



まず、約40種類のアロマオイルの香りを一つ一つ確認し、直感的に◎○△に仕分け。黒木さんは、「アロマオイルの名前を見てから嗅ぐと、先入観で正しい判断ができない場合がある。名前を見る前に匂ってみて。」
とアドバイス。仕分け後は、自

分が作りたいたいイメージの香りに題名を付け、◎や○をつけたオイルを中心に茶の実オイルと調合していきます。題名は「夏の思い出」「青春」「初恋」「爽快」など、人それぞれ。最後に、全員が調合したオイルを並べて、商品化する香りを投票で決めました。
今回、商品化が決定したのは、純短大の寺迫優歌さんが調合した「通りすがりのあの人」という名の香り。柑橘系の爽やかな中に、少し甘さの漂うオシヤレな香りです。寺迫さんは、「まさか自分のオイルが選ばれるとは思わなかった。販売が楽しみです。」と笑顔で語りました。フレグランスオイルは8月にラベルやパッケージを完成させ、11月末のソラシドエアのグリーンスカイフェスタでの販売を予定しています。

